

日本臨床発達心理士会 中国・四国支部会報

Japanese Association of Clinical Developmental Psychologists

第14号(2010年5月1日発行)

発行 日本臨床発達心理士会中国・四国支部
編集 日本臨床発達心理士会中国・四国支部会報編集委員会
事務局 〒739-8524 広島県東広島市鏡山1-1-1 広島大学大学院教育学研究科幼児教育学研究室
TEL:0824-22-7111(内線5680) FAX:0824-24-5261

目次

- 1 ご挨拶
- 2 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第8回総会のご案内(重要)
- 3 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第21回研修会ご案内
- 4 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第18回研修会報告
- 5 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第19回研修会報告
- 6 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第20回研修会報告
- 7 編集後記～会費納入等についてのお知らせ～



1 ご挨拶

日本臨床発達心理士会 中国・四国支部
支部長・幹事 猪木省三

今年も新緑の季節となりました。中国・四国支部の会員の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

2003年4月に支部が発足して、早いもので7年が過ぎようとしております。この間、臨床発達心理士会の会員数は全国で2200名を超え、支部の会員数も150名を上回る規模となりました。これも、皆様からの多大なご支援、ご協力のたまものと、感謝の言葉もありません。あらためてお礼を申し上げます。

さて、今回の会報でご案内しております通り、来る5月30日(日)の13時から支部総会、続いて13時50分から支部研修会を開催いたします。

支部総会は年に一度の支部会員の会合ですので、ぜひご参加下さり支部の活動についての意見交換、情報交換に参加いただきたいと思います。今後の課題として、中国・四国支部の分割、臨床発達心理士の社会的貢献、中国・四国支部としての研修会以外の活動など、いくつかの課題があるかと考えております。

支部研修会は今回で第21回目となります。今回は川崎医療福祉大学の進藤貴子先生を講師としてお願いしております。「認知症高齢者との対話療法の可能性」と題して講演をいただきます。これまで本支部の研修会ではほとんど取り上げられなかった高齢者、なかでも認知症高齢者を対象とした内容でお話しいたします。資格の更新ポイントとして1ポイントになります。ぜひご参加下さいますようお願い申し上げます。

なお、ご都合で当日の総会への出席がむずかしい会員の方は、総会への委任状をお送りくださいますよう、勝手ながら、何卒よろしくお願い申し上げます。

2 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第8回総会のご案内【重要】

2010年度中国・四国支部総会を次のように行います。あわせて第21回研修会も開催されます。ぜひご参加下さいませようご案内申し上げます。

1. 日 時 2010年5月30日(日)13:00～(40分程度, 続いて研修会)
2. 場 所 岡山県生涯学習センター 情報創作棟3F 書道教室(洋室)
岡山県岡山市北区伊島町3丁目1-1 TEL:(086)251-9750
<http://www.pal.pref.okayama.jp/index.html>
3. 議 題
 1. 2009年度活動報告
 2. 2009年度会計報告
 3. 2010年度活動計画案
 4. 2010年度予算案 他
4. アクセス



※ なお、ご都合で出席なさらない方は、必ず期日までに事務局宛に委任状をお送りくださいますようお願い致します。総会成立のためご協力の程お願い申し上げます。

3 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第21回研修会のご案内

総会に引き続き、次のような研修会が開催されます。たくさんの会員の方々のご参加をお待ちしております。研修会の参加者ポイントは1ポイント(3時間)です。

1. 日 時 2010年5月30日(日)13:50～16:50
2. 場 所 岡山県生涯学習センター(総会と同じ)
3. 講 師 進藤貴子先生(川崎医療福祉大学医療福祉学部准教授)
4. テーマ 「認知症高齢者との対話療法の可能性」

今まで本支部の研修会ではあまり取り上げられなかった高齢者の臨床発達に関する研修です。具体的には、認知症高齢者を対象とした非薬物療法、認知症高齢者とのコミュニケーションの工夫、心理士としてできること、すべきことなどについてお話しいただき、時間の後半では、精神科高齢者病棟での事例をご紹介いただく予定です。高齢者の臨床発達を知り、臨床発達心理士に今後求められる役割を考えることができそうです。

4 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第18回研修会のご報告



2009年9月12日(土)、鳥取大学附属特別支援学校にて、中国・四国支部第18回研修会が開催されました。

「睡眠と発達についての科学論と文化論—睡眠覚醒リズム その発達と教育—」と題し、広重佳治先生(鳥取大学地域学部教授)によるご講演を賜りました。

まず、子どもの睡眠が、短い睡眠周期(ウルトラディアンリズム)から夜間まとめてとる睡眠(サーカディアンリズム)へと移行するという、生物学的基礎をご紹介いただきました。また、この移行過程で生じるフリーランリズム(睡眠と覚醒の時間帯が約25時間周期で交代)や、子どもの睡眠習慣に及ぼす母親の影響の大きさなど、興味深い話題をご提供いただきました。



次に、「子どもの夜型化」「睡眠の量と質」などをテーマに、睡眠の現状を知るための数々の資料をご提示いただきました。我が国の子どもの睡眠時間が国際比較で短いこと、子どもを夜型に追いやる同調因子、学力向上のための「早寝早起き朝ごはん」運動への警鐘など具体的な資料をご紹介いただきながら、丁寧にお話いただきました。

最後に、「睡眠教育の実践」という新しいテーマをご紹介いただきました。「健眠シート」を用いた実践など、最新の取組を知ることができました。また、睡眠に関する科学的知識の普及、相談や指導の充実、指導者の養成など、今後の課題をお示しいただきました。

先生には休憩中も、参加者からの質問に丁寧にお答えいただきました。毎日のことでありながら意外と知らない「睡眠」について、最新の情報と知識を得ることができました。参加者数は22名。県役員の田丸敏高先生を始め、地元の先生方に大変お世話になりました。臨床発達心理士会各支部主催の研修会として資格更新ポイントは1ポイント(3時間)でした。

5 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第19回研修会のご報告



2009年12月5日(土)にノートルダム清心女子大学にて、日本発達心理学会との共催で、シンポジウム「自閉症スペクトラム児・こだわりの子の成長を支える本とのかかわり～今、大人達がすべきこと～」が開催されました。概要は以下の通りです。



自閉症スペクトラム児は、発達的な特性を持っています。彼らがいきなり活字のみからストーリーを理解することに難しさはありますが、絵本についてはうまくいく場合があります、生活アイテムとして有効です。子どもの発達段階や特性に合わせた時間の過ごし方を考慮しながら、絵本を選んでいく必要があります（医師の立場から：大野小児科医院 大野繁先生）。そうした絵本との関わりは、「子ども達一人ひとりの個性を、大切なものとして認めていく」文脈の中で行われる必要があります。その中で、仲間とともに同じ絵本を楽しむといった共通体験は、彼らの成長にも重要な役割を果たします（発達心理学の立場から：ノートルダム清心女子大学 湯澤美紀先生）。そして成長の中で、彼らは大きな変身を遂げる瞬間があります。そうした変身を支える絵本と保育者の役割が示されました（保育の現場から：さくらが丘保育園 片平朋世先生）。

いくつかの実践事例をうけ、脇明子先生（ノートルダム清心女子大学）は、児童文学の立場から、「大人が子どもにお話をする」という営みの素晴らしさや、「子どもウォッチング」の重要性についてお話をされました。加えて、発達を支援する絵本として、①日々の生活というものをつかみやすくしてくれる絵本、②変身したいという願いを育ててくれる絵本、③子ども同士の遊びや、さまざまな実体験につながる絵本、④立場による考えのずれや、わかりあえたときの喜びが味わえる絵本、⑤読み聞かせてもらう幸せがとりわけ味わえる絵本、の紹介がありました。

最後に、特別支援の立場から、発達支援を行う上で大人の役割の重要性が指摘されました（立命館大学 荒木穂積先生）。子どもの成長には、やはり大人による足場づくりが必要です。そのことを「本」をキーワードに再確認できた一日となりました。なお、総参加者数は78名、そのうち臨床発達心理士資格者は、23名でした。臨床発達心理士会各支部主催の研修会として資格更新ポイントは1ポイント（3時間）でした。

6 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第20回研修会のご報告

2010年3月13日（土）、香川大学教育学部附属特別支援学校にて、中国・四国支部第20回研修会が開催されました。「気になる子どもの理解と支援：マルチアレンジングサポート」と題し、橋本正巳先生（くらしき作陽大学子ども教育学部教授）によるご講演を賜りました。

前半は、特別支援教育やクラス支援のポイントを最近の話題とともにお示しいただきました。根拠のある指導の必要性、よくわかる授業と過ごしやすいクラスの大切さなどを、厳しい現場の様子もご紹介いただきながら、丁寧にお話いただきました。また、子どもの行動をメッセージと捉え、「何でだろう？」と考え、共通理解し、一貫性のある指導を行うことの大切さを教えていただきました。



後半は、支援者として如何に考え関わるか、グループワークを通じて学ぶことができました。具体的な事例をご提示いただき、「その場の関わり」「これからの関わり」などをグループごとに議論し、共有するという演習でした。配布いただいた「行動支援ワークシート」は、支援の方向性を考え、具体的な関わりを導く、逸出したものでした。「その場でどうかかわるか」

「そうならないためにどうするか」等と考え、複数のアイデアを編み出し提示していく、マルチアレンジングサポートの基本をご教示いただきました。

ご講演後、参加者から実践的な質問が出され、さらに学びを深めることができました。先生は長年、すべての子どもが輝く支援を目指して実践されてきました。いままで支援に携わった事例は5,000件を超えるとのこと。経験の中で蓄積された、にじみ出る実践的叡知の一端を、楽しいお話やロールプレイとともに教えていただくことができました。参加者数は19名。県役員の西村健一先生のお世話になり、初めて香川県で開催することができました。臨床発達心理士会各支部主催の研修会として資格更新ポイントは1ポイント(3時間)でした。



7 編集後記 ～会費納入等についてのお知らせ～

中国・四国支部会報第14号はいかがでしたか。すでに会員の皆様には心理士会より通知が送付されておりますが、2009年度と2010年度と会費納入の方法が変更になりました。納入の要/不要と合わせて、納入先についてもお間違えのないよう、ご確認ください(<http://www.jocdp.jp/php/news/data/171335.pdf>)。また、2010年度会費をまだ納入していない方は、早急にお手続をお願い致します。

また、年度がわりのご異動等に伴って、連絡先に変更のある方は支部事務局にもご連絡ください。ご登録いただいているメールアドレスのみが変更になられた方は、下記の投稿宛先となっているアドレスまでご連絡いただいても結構です。登録番号、お名前とともに新アドレスをお願いします。

支部ホームページ(<http://www.geocities.jp/jacdpcs/>)には、研修会などのご案内、支部会報のバックナンバー、支部規程などを掲載しております。こちらもぜひご利用ください。

支部では、今後も会員相互の情報交換等に役立つような紙面作りをしたいと願っております。引き続き、会員の皆様から「会員紹介」「耳より情報」など、自薦他薦を問わずご投稿を広く募っております。気軽に奮ってお寄せ下さい。

(宛先：yashima●hbg.ac.jp：ご利用の際は、●を@にかえてご入力ください)

(編集委員会)